

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年08月22日

計画の名称	富士の麓の高原都市にふさわしい水環境保全（防災・安全）												
計画の期間	平成31年度～令和04年度（4年間）										重点配分対象の該当		
交付対象	御殿場市												
計画の目標	御殿場浄化センターについては再構築計画に基づく施設の耐震化や機器更新等を行い、管渠施設についてはストックマネジメント計画に基づいて点検・調査を進めることで、事故の未然防止を図る。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	605	A	605	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 $C / (A + B + C + D)$	0	%

番号	計画的成果目標（定量的指標）	定量的指標の現況値及び目標値		
		定量的指標の定義及び算定式		
		当初現況値 (H31当初)	中間目標値 (R2末)	最終目標値 (R4末)
1	R4までに、御殿場市下水道総合地震対策計画に基づき消毒施設及び沈砂池棟の耐震化を行う。 総合地震対策計画に基づく耐震化済の施設数	0箇所	1箇所	2箇所
2	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づく最重要・重要管路の点検・調査の実施距離を累計7.4kmとする。 下水道ストックマネジメント計画に基づく管路の点検・調査	2 km	5 km	8 km
3	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、御殿場浄化センター沈砂池設備の更新を行う。 下水道ストックマネジメント計画に基づく機器更新済の施設数	0箇所	0箇所	1箇所
4	R4までに、下水道ストックマネジメント計画に基づき、マンホール蓋の更新を行う。 下水道ストックマネジメント計画に基づくマンホール蓋更新済の数	0箇所	0箇所	190箇所

備考等	個別施設計画を含む	<input type="radio"/>	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	-----------------------	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況	
												H31	R02	R03	R04	R05				
一体的に実施することにより期待される効果																				
備考																				
下水道事業	A07-001	下水道	一般	御殿場市	直接	御殿場市	終末処理場	改築	御殿場浄化センター耐震化事業	消毒施設及び沈砂池棟の耐震化	御殿場市						132		策定済	
	A07-002	下水道	一般	御殿場市	直接	御殿場市	終末処理場	改築	ストックマネジメント計画の見直し	ストックマネジメント実施計画の見直し	御殿場市						18		策定済	
	A07-003	下水道	一般	御殿場市	直接	御殿場市	管渠(汚水)	改築	管渠施設ストックマネジメント事業	重要管路点検・調査 L=6.0 km	御殿場市						17		策定済	
	A07-004	下水道	一般	御殿場市	直接	御殿場市	終末処理場	改築	御殿場浄化センターストックマネジメント事業	沈砂池設備更新	御殿場市						358		策定済	
	A07-005	下水道	一般	御殿場市	直接	御殿場市	管渠(汚水)	改築	下水道施設ストックマネジメント事業	マンホール蓋更新 N=190箇所	御殿場市						80		策定済	
												小計						605		
												合計						605		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
庁内の下水道業務経験者を含む事後評価委員を選定し、社会資本総合整備計画事後評価委員会（下水道）にて事後評価について意見を聴取した。	令和6年7月
	公表の方法 御殿場市HP
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・処理場の耐震化により、震災時の下水道処理機能の確保、向上が図られた ・最重要・重要管路の点検・調査を行ったことにより、管路の状態を適確に把握し、必要に応じて修繕・改築を行ったため、安定的な事業運営が行われた。今回の点検調査を基に今後のストックマネジメント計画に反映させていく。 ・沈砂池設備更新を行ったことにより、沈砂池機能が回復し、御殿場浄化センターの長寿命化に寄与した。 ・マンホール蓋の更新を行ったことにより、ふた等のがたつきによる騒音・振動の改善や蓋表面の耐スリップ構造による車両のスリップ防止が図られ安全性が向上した。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・マンホール内に追加で転落防止梯子の設置したことにより、安全性が向上した。
特記事項（今後の方針等）	
下水道ストックマネジメント計画に基づき、管渠・施設の更新、耐震工事を行っていく。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	消毒施設及び沈砂池棟の耐震化		
	最終目標値	2箇所	R5事業完了 沈砂池棟耐震工事はR3-R4計画だったが、新型コロナウイルス流行や全国的な半導体不足等があり、R5まで工期が延長したため。
	最終実績値	2箇所	
2	最重要・重要管路の点検・調査		
	最終目標値	8 k m	外の事業を優先し、該事業は交付金事業から除外したため、社会資本総合整備計画としては目標達成率0%となった。しかし、市単独費を使用し、点検・調査が順調に進み、計画以上の計8.3 k m点検・調査を行った。
	最終実績値	2 k m	
3	沈砂池設備の更新		
	最終目標値	1箇所	R5事業完了 沈砂池棟耐震工事はR3-R4計画だったが、新型コロナウイルス流行や全国的な半導体不足等があり、R5まで工期が延長したため。
	最終実績値	1箇所	
4	マンホール蓋更新予定数		
	最終目標値	190箇所	令和4年度交付金は3沈砂池更新工事を優先したため、社会資本総合整備計画としては目標値に至らなかったが、令和2年より市単独費にて更新を実施していたことから、総数としては目標値を上回った。
	最終実績値	83箇所	